

災害時外国人被災者 への情報伝達 (熊本地震での事例)

内容：熊本市の概要

熊本市国際交流振興事業団の概要

熊本地震の概要

1. 熊本地震での外国人被災者の状況
 - ・ 発災直後 ～ 避難所生活 ～
日常 ～ 復興
2. 避難所設置・運営
3. 災害多言語支援センター設置・運営
4. 平時のセーフネット関連事業

2019/2/21

一般財団法人

熊本市国際交流振興事業団

事務局長 八木浩光

yagi@kumamoto-if.or.jp

プロフィール

情報コーディネーターに関して：

災害時外国人支援情報コーディネーター制度に関する検討会 委員

多文化共生関係

- ・ 自治体国際化協会国際化推進
アドバイザー
- ・ 文化庁地域日本語教育スタート
アッププログラム・アドバイザー

熊本市の概要

位置

東経130度42分

北緯32度48分

面積

390.32平方キロメートル

産業

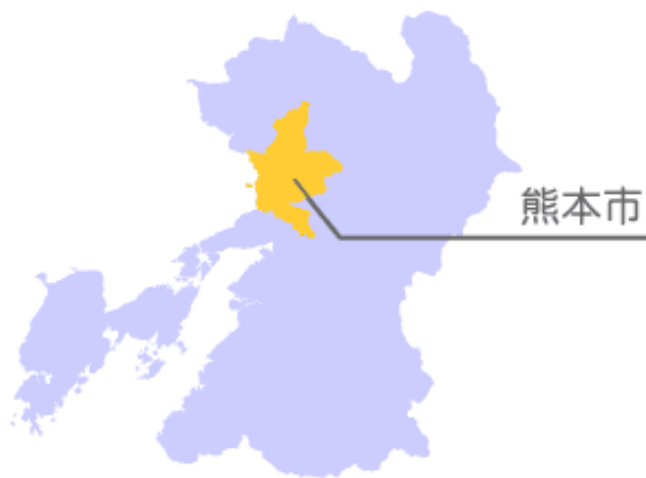
サービス産業が中心。

そのほか、IC産業の集積、全国でも高い生産性を誇る都市型農業、水産業など

参考 熊本市政要覧2015

<http://www.city.kumamoto.jp/html/aramashi/toukei/top/yoran2015/>

2019/2/21



City of Kumamoto

熊本市 市勢要覧2015
Outline of Kumamoto City



人口（震災前と現在）

	2016年3月	2017年3月	2019年2月
総人口	734,972	733,345	733,861
男	346,043	345,747	346,585
女	388,929	387,598	387,276
外国人住民 人口(比率)	4,569 (0.62%)	4,696 0.65%	5,949 0.81%)
男	2,029	2,149	2,870
女	2,540	2,547	3,079

震災前

主な国籍多い順

中国、韓国、フィリピン
ベトナム、米国、ネパール

主な在留資格多い順

永住者、留学、
日本人の配偶者等

→2019年

中国、**ベトナム**、フィリピン
韓国、**ネパール**、インドネシア
米国、台湾、タイ

永住者、留学、**技能実習**
技術・人文・国際業務
日本人の配偶者等

今後の動き

2019年 ワールドカップラグビー（2試合）、女子ハンドボール世界選手権
2020年 アジア・太平洋水サミット

熊本市国際交流振興事業団の概要



常勤役員 1、プロパー職員 10
嘱託職員 10、臨時職員 3
相談員 4
(中国語、韓国語、タガログ語、スペイン語)

1993年(平成5年) 財団法人として設立
熊本市の外郭団体

1994年(平成6年) 国際交流会館
オープン

2006年(平成18年) ~ 国際交流会館
指定管理者

2012年(平成24年) 一般財団法人へ移行

2013年(平成25年) 総務省

地域国際化協会へ認定

(2012年熊本市政令指定都市へ)

2017年(平成29年) 国際交流基金

平成28年度地球市民賞受賞

事業概略

1 多文化共生推進事業

- ・ 多文化共生オフィス、地域サポート
(多言語相談、医療保健通訳..)
- ・ 日本語教育
- ・ 外国人の防災
- ・ 外国ルーツの子ども教育支援

2 地球市民育成事業

3 国際化推進事業

4 国際交流会館管理運営

まちづくり推進事業、カフェ運営

地域日本語教室
熊本地震後、
支え合う関係づくり
を目的に開設⇒

東区くらしの
にほんごくらぶ



熊本市国際交流会館

地上 7 階、地下 2 階

ホール(230名収容)

会議室(多様な16の会議室)

交流ラウンジ

(多文化共生オフィス)

Linkカフェ



⇒ 1 階エントランス、カフェ

2019/2/21
2階交流ラウンジ⇒

熊本地震の概要

○前震

発生 2016年4月14日(木) 21:26
規模 マグニチュード6.5
熊本市内震度 震度6弱
(県内最大震度 益城町 震度7)

○本震

発声 2016年4月16日(土) 01:25
規模 マグニチュード7.3
熊本市内震度 震度6強
(県内最大震度 益城町、西原村 震度7)

○余震

震度1以上の地震回数 4484回
(2016年4月14日～

2018年4月30日)

○熊本市被害状況 (2018年12月13日現在)

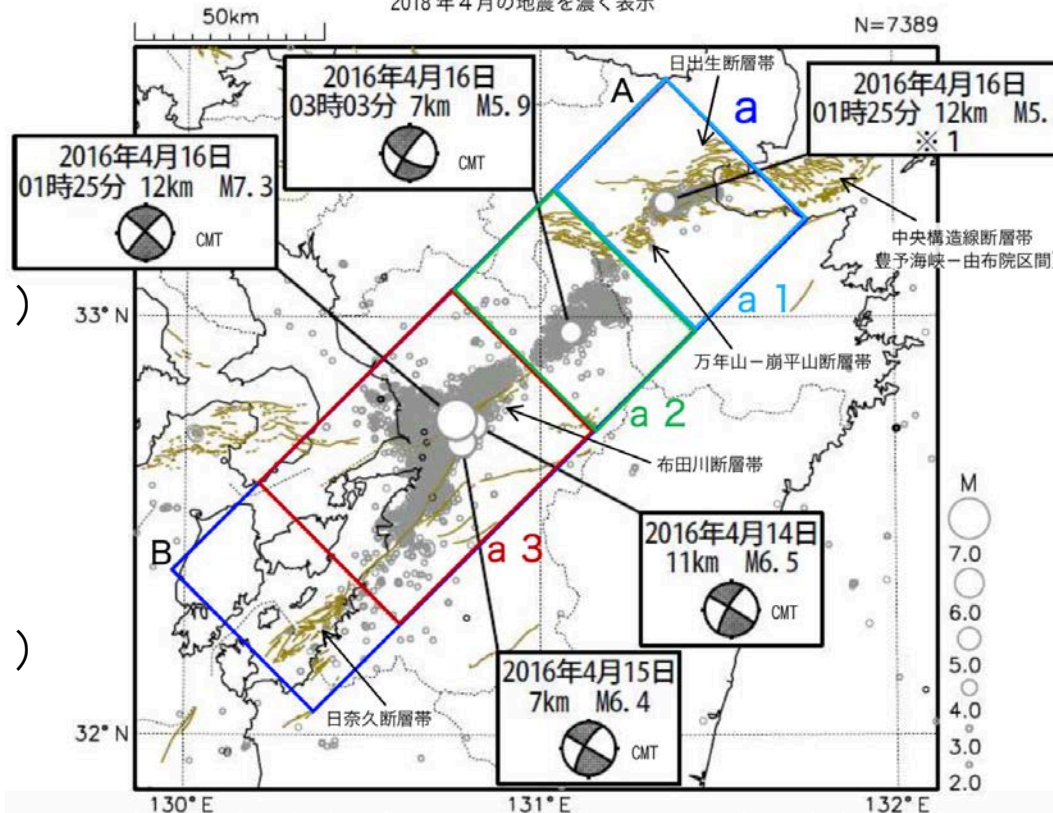
人的被害 死者数87人(関連死83人を含む)
重傷者数770人
(県内 死亡者270人(関連死220人を含む)
重傷者1184人)

家屋被害 全壊2,456棟、半壊15,219棟、一部損壊105,084棟

(県内 全壊8,643棟、半壊34,392棟、一部損壊154,997棟)

最大避難者数 約11万人(県内約18万人) (4月17日08時頃)

震央分布図
(2016年4月14日21時～2018年4月30日、深さ0～20km、M≥2.0)
2018年4月の地震を濃く表示



気象庁ホームページ



2019年1月撮影

3年が経とうとする中で:

- ・2017年度「復興元年」
- ・「熊本市震災復興計画」に基づき、被災者の生活再建支援を優先
- ・熊本城：天守閣の復旧工事が加速化：2020年の東京オリ・パラに向け再公開予定
- ・市民病院の再建、地域経済をけん引する中心市街地（熊本城ホールを含めた桜町エリア）や熊本駅の再開発など、「新しい熊本市」の姿が見え始めました。

1. 熊本地震での外国人被災者の状況 発災直後

① フィリピン人

日本人配偶者： 前震、頭の真横にTVが倒れきた。⇒ 家の中は怖い、車中泊

⑤ 韓国人、インターンシップ生
前進直後、国際交流会館に避難
テーブル下に入って怖くて動けない。

② バングラデシュ留学生と家族：

前震発生直後、電話、何が起きている？
(状況が把握できない。)

小学校の避難所を案内 ⇒ 避難所 ⇒
スーパーの駐車場（一晩過ごす。）

- ・ 日本語だけの避難所にストレスを感じた。
- ・ 建物内は不安

本震後、国際交流会館へ避難

4月19日 JRが再開、福岡へ移動



③ 中国人技能実習生：

来日2週間、ホテル滞在
前震後から公園で過ごす。

本震後、国際交流会館へ避難
不安を忘れるように日本語学習
炊き出し協力（中国料理）

⇒ 少しずつ落ち着く

4月23日 実習先へ移動

④ パプアニューギニア留学生：

初めての地震体験
何が起きているか
恐怖で動けなかった
アパートの隣人が
助けてくれた！

「避難所」(単語)

食事・水が配布されること



熊本市国際交流振興事業団で 出来た事、できなかった事

- 避難所開設・運営
- 多言語災害メール配信（災害情報、避難所開設、各避難所情報）
- ボランティアや協力者の方々の安否確認
- 外国人コミュニティキーパーソンへの連絡

できなかった事

- ✓ 各避難所での外国人被災者の安否確認のための巡回
- ✓ 災害多言語支援センターの立ち上げ準備（ノウハウ不足）

1-2. 熊本地震での外国人被災者の状況 避難所生活

聞き取り
調査 ⇒

避難所生活は非日常の連続

- ・ 今後の地震は（余震が続く）
- ・ 生活はどうか
- ・ 自宅・アパートが被災
⇒ 住んでも大丈夫だろうか？
- ・ 信条を守ることが困難



- ・ 地震未経験（防災訓練未経験）
⇒ 未来を想像できない
 - ・ 避難所、TVの災害支援情報が殆ど日本語
 - ・ 回りに日本人が多く孤立した気持ちに
 - ・ イスラム教など信条が守れずストレス
- 活動することで不安が和らぐ避難者↓



国際交流会館では

- ・ 多言語で支援
- ・ 17日に聞き取り調査 ⇒ 日常に戻るには何が必要(不安・居住)
- ・ 宗教へ対応
ハラール、お祈り場所提供

1-3. 熊本地震での外国人被災者の状況 日常 ～ 復興

日常が取り戻される中、外国人被災者の課題は変化していった。

- ・ 仕事、大学が再開され、日常に忙殺される中、不安が蓄積される。

⇒ 気付かず重症化

（トラウマ、子どもの変化、DV..）

⇒ 心が落ち着かない

- ・ 仕事場がなくなる VS 在留資格

- ・ 大学 研究施設被災

⇒ 研究のやり直し..

奨学金期間終了

生活相談会
の開催
（避難所に
外国人住民
が少ない）



※ 避難所巡回時に外国人避難者が少ない、日常に忙殺されている外国人住民が増えているに違いない

⇒ 生活相談会の開催 5/1、8、31、6/12

【分野】法律、在留資格、行政、居住、こころ

- ・ リ災証明、仕事関係、居住への不安、生活支援
- ・ こころの相談の増加：子どもの変化（話さなくなった、1人で眠れない、恐怖を誰かに話したい、1人になると頭痛
- ・ 外国人コミュニティが相談の受け皿 ⇒ 連携例）楽しいイベントで気持ちを癒やすなどの工夫

2. 避難所設置・運営

前震(4/14 9:26pm)後、4月15日 01:00am

- ・ 国際交流会館に外国人避難対応施設開設
- ・ 避難者：韓国人3人、日本人1人
⇒ 15日夕方、全員退所
- ・ 15日通常貸し館業務・事業中止
- ・ 15日 10:00pm 避難対応施設閉鎖

市国際課と
事業団が開設を協議
⇒開設

本震(4/16 1:25am)後、4月16日 04:00am

- ・ 国際交流会館に外国人避難対応施設開設
- ・ 避難者：20人以上の日本人が開設と同時に避難夜が明け
100人以上の外国人被災者が殺到
- ・ 4月30日まで24h連続運営



**外国人・日本人被災者を共に受け入れた。
外国人への配慮：**

- 多言語（英・中）支援、支援情報掲示（英・中・韓・日）
文化支援
- ・ 配給時食材の説明
 - ・ 炊き出し（温、栄養、ハラール）

民間団体（コムスタカ～外国人と共に生きる会）の協力
<http://www.geocities.jp/kumustaka85/>

- ・ 聞き取り調査

2019/2/21

安全な場所の確保：熊本市国際交流会館
地域防災計画で外国人避難対応施設と明記

開設準備

- （事業団が指定管理者として全館を管理⇒夜間でも対応可能）
- ・ 事業団スタッフの安否確認⇒緊急対応スタッフが解錠、施設の安全を確認 ⇒ 開設

1階エントランス



2階交流ラウンジ



できなかった事

- ・ 外部避難所巡回
⇒国際交流会館の避難所運営施設運営に追われる。
- ※各ボランティアが避難所の様子を報告⇒個別支援へ

夜間運営スタッフ：事業団2、
市1、JICAなどボランティア1、
設備管理1 食料配給の様子
多言語表示⇒



3. 災害多言語支援センター設置・運営

開設、4月20日 ~ 5月5日
(フェーズ1: 連携で運営)
5月06日 ~ 11月30日
(フェーズ2: 事業団単独運営)
12月01日~
(事業団多文化共生まちづくり事業)

場所の確保: 安全
インフラ(ネット、文具、パソコン..)
宿泊場所、食事..
チームワークが大切、信頼する同士
⇒ 熊本市国際交流会館3階会議室
宿泊 会館内会議室、シャワー室有



開設まもない時期、会議の様子

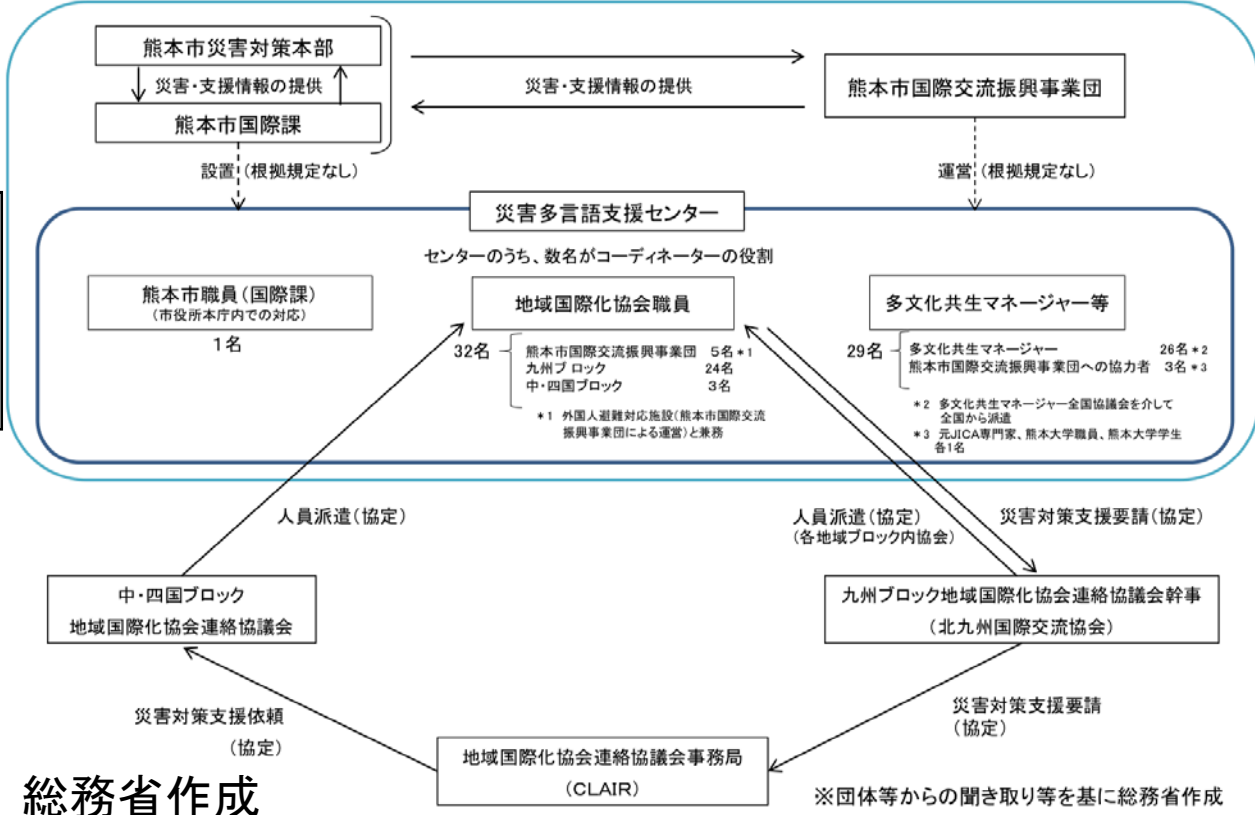
図4-1 熊本地震の際の熊本市における外国人支援の仕組み

活動内容(総務班、情報班)

- ・災害支援情報の多言語化(英中韓、やさしいにほんご) ⇒ ホームページ
会館掲示、各避難所(市経由)
- ※やさしいにほんご ⇒ 熊本県立大学
- ※センターで対応できない時、外部協力者
- ※少数言語 インドネシア語、タイ語、アラビア語など ⇒ 大阪大学
- ・避難所巡回 在留外国人住基データを使用して避難所想定 ⇒ 50箇所以上を巡回

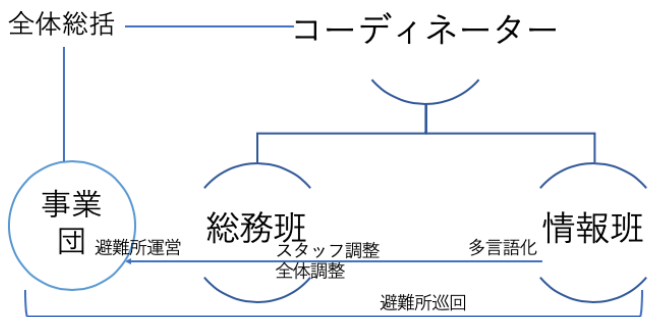
同時併行

避難施設
運営・
会館管理



センターの1日(8-21)

8:30 全体会議
12:00 同上(必要な場合)
18:30 同上
全体会議外は班単位の活動
2019/2/21



総務省作成

http://www.soumu.go.jp/main_content/000539746.pdf

事業団で始まったプロジェクト

・ 地域日本語教室 多文化共生社会の拠点

平時の外国人・日本人住民の支え合う関係づくり

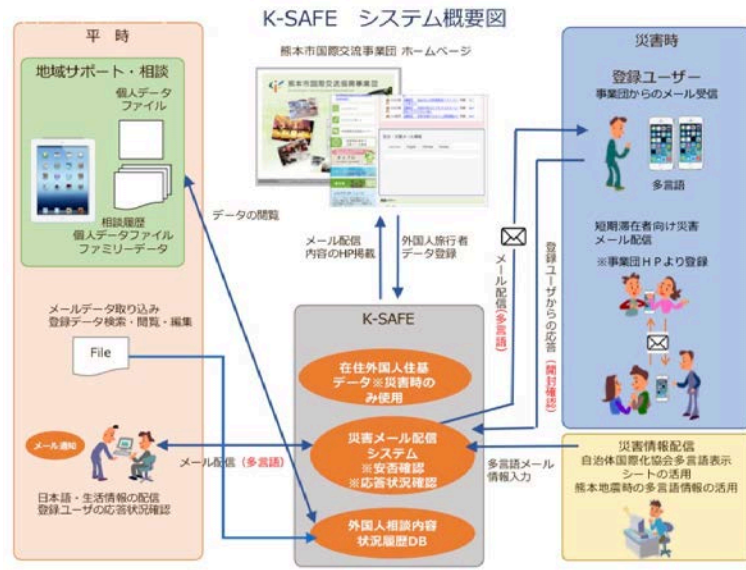
・ 災害時多言語支援サポーター制度

多言語通訳、
身近な避難所で
外国人被災者を
サポート

・ 災害時外国人 支援システム

K-SAFE

住基データを集約
整理して外国人住民
を支援、また右記
図のとおりメール
配信



さらに、大規模自然災害を最小被害に止めるには広域連携が必要。熊本地震の時には、九州、中国・四国ブロックの地域国際化協会のスタッフと多文化共生マネージャー全国協議会のボランティアが駆けつけた。

今、全国の情報コーディネーター同士の顔の見える関係づくりが期待される。

4. 平時のセーフネット関連事業

熊本地震後、外国人住民のコミュニティ活動が防災意識を共有するため活発になりました。

・中国ルーツの人たちは、支え合う関係づくりを目的に卓球大会、春節の集まりなどの多くの機会を開催

・フィリピン人会は、県内地域毎の集まりに加え、日本人住民を含めた全体交流会を開催

・外国人妻の会は、毎月定期的に集まり交流を発展

・イスラム教徒たちは、日本人住民との相互理解を目的にイスラム教徒の女性が着用するヒジャブ（髪の毛を隠すスカーフ）体験やモスク訪問を開催

・熊本大学留学生会(KUMISA)は、「外国人のレンズが捉えたクマモト」写真展を開催、彼らが熊本地震から学んだ「つながり」への感謝や第二の故郷となった熊本が多くテーマとなった。

⇒ これらの外国人住民コミュニティと地域住民が、つながることが大切

⇒ 少数派の外国人住民も、アパート、学校、職場など小さなつながりで孤立させない

備えること、つながること、
情報コーディネーター=つなぎ手

